



# 図書館だより

宇都宮市立陽北中学校  
令和5年 12月号



今月は、読書週間があります。図書委員さんが準備をしてくれています。冬休み前の特別貸出も同時に行います。ぜひ、学校図書館へ来て、本を借りてください。冬休み中に読書を楽しみましょう。



## 陽北中学校 校内読書週間！

12月11日（月）～12月25日（月）



### 1. 図書委員さんがミステリーの本の紹介をします！

1・2年生の図書委員さんがブックトークをします。スライドも作成しましたので、ブックトークを聞きながら一緒に見てください。

3年生の図書委員さんは、スライドによる本の紹介をします。

### 2. 陽北中 Book of the year 2023！

今年読んだ本の中で、感動した本、面白かった本、おすすめしたい本のベスト2を教えてください。陽北 Library のフォームに書いて 12月22日（金） までに送信してください。よろしくお願いいたします。後ほどランキングを発表します。

### 3. しおりがもらえます！

お楽しみ袋（どんな本が入っているかは、あけてからの楽しみ！本の一期一会）・本屋大賞20年のスタンプラリーの本・先生、図書委員さんがおすすめする本を借りるとしおりがもらえます。

### 4. 「お話給食」を実施します！

本の中に登場する料理を給食で取り入れます。今月2回実施されます。秋場先生や調理員さんにご協力いただき、おいしい給食を作ってください。本は、図書館に展示してあります。

<12月4日（月）> 『パンどろぼうとなぞのフランスパン』『もっともっとおきなおなべ』より

・なぞのフランスパン（リゴザム）・牛乳・もっともっとおきなおなべシチュー・ゆで野菜（フリドリ）  
・ラフランスゼリー

<12月5日（火）> 『ピヨピヨスーパーマーケット』より

・スパゲティミートソース・牛乳・ゆで野菜（ゴツリミドリ）・オレンジゼリー



### 5. 読書期間中貸出冊数が5冊になります！冬休み前の貸出になります！

さまざまなジャンルの本を借りて読みましょう！

返却日は、1月19日（金）までです。



## 先生方のおすすめ本を紹介します！

図書館にコーナーを作りました。陽北 Library にも載せました！

木口貴史先生『ぼぎわんが、来る』 澤村 伊智/著 KADOKAWA 913/サ

「ぼぎわん」とは何か？「ぼぎわん」が来ると、何が起こるのか？

怖いです。どきどきハラハラです。日本ホラー小説[大賞]受賞作（2015年）です。ぜひこの本を読んで、「恐怖」を味わってください。

**大井恵美先生『スモールワールズ』 一穂ミチ/著 講談社 913/イ**

「ネオンテトラ」「魔王の帰還」「ピクニック」「花うた」「愛を適量」「式日」家族とそこにある苦悩や秘密にまつわる6つの短編集。登場人物が少しずつつながっているとところもおもしろいです。全ての物語に心を揺さぶる、種類の異なる驚きがつまっています。単純な「いいお話」でおわらないところも魅力です。私のおすすめは、「花うた」です。ぜひ読んで、どの物語が心に残ったか、教えてくださいね。

**原崇先生『運転者』 喜多川 泰/著 デイカガアートエッセイ 913/キ**

私がこの本を読んで思ったのは「邪魔する人」「人のやる気をなくす事しか言えない人」などが周囲にいたら、まずは環境を変えないと始まらないと思いました。そして、環境を整え諦めていたことを挑戦してみようと思いました。もし開花したら感謝です。

**鈴木健介先生『修身教授録入門』 森 信三/著 致知出版 150/モ**

私が夏休みに読んだ本で、一番感動した作品です。森信三先生は「国民教育の師父」といわれ、『修身教授録』は教育界のみならず、愛読書としてあげる経営者やビジネスマンも多く、今でも人々に感化を与え続けています。本書はその入門編として、15の授業を収めています。教師になりたい人はもちろん、有意義な人生を送りたいと思う人は、ぜひ読んでみてください。人生の意義/読書の効能/仕事の進め方/生活態度/幸・不幸の捉え方/一日の意味/真の生き甲斐を学びました。

**加藤愛未先生『表参道のセレブ犬とカバーニヤ要塞の野良犬』 若林 正恭/著  
文藝春秋 914/ワ**

これはただの旅行記じゃない。勝ち組って何だろう。勉強が必要に感じて大人になって家庭教師を雇った。知るべきことが、見るべきものがある。灰色の東京を捨てキューバへ。そこで出会った人、体験したこと。でも最後に話しかけてきたのは……。文庫版にはモンゴル、アイスランド、コロナ禍の東京編も追加。あとがきはCreepy NutsのDJ松永が寄稿。ちょっとこじらせた大人がいとおしくなる。そんな大人からみなさんへ。いつか世界を旅してほしい。抹茶味のキットカットを持って。好きな本を一冊持って。

**和田幸子先生『クスノキの番人』 東野圭吾/著 実業之日本社 913/ヒ**

不当な理由で職場を解雇され、腹いせに罪を犯して逮捕された青年（玲斗）。そこに弁護士が現れ、依頼人の要求に従うなら釈放するという話に困惑しながらも乗る。わけも分からず依頼人に会いに行くと、今まで会ったことのない叔母の姿があった。そこでクスノキの番人を命じられる。そのクスノキには不思議な言い伝えがあり、青年は番人をしてながら不思議な力を理解していく。青年と叔母との関係性もおもしろい。

**瓦井雅士先生『四季抄 風の旅』 星野 富弘/著 立風書房 720/ホ**

星野富弘さんの人生には、大きなターニングポイントがありました。道ばたに咲くちいさなつゆ草、ぺんぺん草。臭いときらわれるとくだみでさえ、十字架に似ている。星野さんの感性に、ぐっと心をつかまれるような詩、文章、そして絵でした。

「よろこびが集まったよりも……」

興味が持てた人は、星野富弘美術館、他の著書もお勧めです。

**高橋智絵先生『私は私のままで生きることにした』 キム スヒョン/著 ワニブックス 159/キ**

「あなたはあなたらしく生きていけばいいんだよ。」と背中を押される言葉がたくさん書かれています。誰の真似もせず、誰もうらやまず、自分を愛することの大切さを伝えてくれる一冊です。ネガティブに物事を考えてしまったり、人の目が気になってしまったりする人は、考え方を換え、ポジティブに物事をとらえられるきっかけになるかもしれません。ぜひ読んでみてください。